

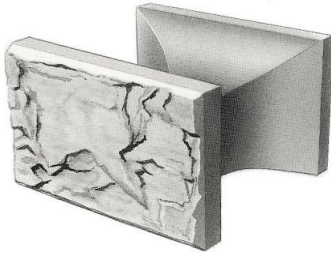
分野(土木・建築)	土木	工種	河川、道路	登録番号	※	公募所属名		
技術の名称	自立型間知ブロック積工法					NETIS 番号	KT-100010-A	
副題(商標名等)	自立型間知ブロック					登録(申請)年月日	平成22年4月30日	
応募技術条件チェック	次のいずれかの項目に適合(該当項目の口をチェック下さい)							
	<input checked="" type="checkbox"/>	県内に本社のある建設業者等が開発したもの。						
	<input type="checkbox"/>	県内に本社のある建設業者等(協会、組合等を含む)が中心となって開発したもの						
技術活用検討委員会	※ 済 未			効 果	4	分 類	1	
	開催年月日							
出先機関部会	※ 済 未			1 コストの縮減	2 安全性向上	3 品質の向上	1 工法	
	開催年月日							
開発者(提案者)	会社名	株式会社 トッコン					TEL	0470-87-5111
	住所	千葉県いすみ市岬町桑田1271						
問合せ先	会社名	株式会社 トッコン					FAX	0470-87-8555
	担当部署	営業チーム						
	氏名	田中 喜久						
	住所	千葉県いすみ市岬町桑田1271						
	TEL	0470-87-5111						
	URL	http://www.iizuka-group.co.jp						
E-mail	y.tanaka@iizuka-group.co.jp							
概要	<p>本技術は、間知ブロックの背面に正面壁と同等の背面壁を設けたH型形状の自立型間知ブロック積工法である。従来は、間知型コンクリートブロック積工法で対応していた。本技術により胴がい・尻がい及び裏型枠が不要となり施工性と品質の向上が期待できる。</p>							
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四角錐体の間知ブロックの背面に正面壁と同等の背面壁を設けて自立型とした。</li> <li>・自立型に変えたことにより、ブロックの据付時に胴がい・尻がい及び裏型枠が不要となり、かつ2~3段積上げ後同時に胴込(裏込)コンクリートの打設が可能となり、施工性が向上し、打継面が少なり壁体としての一体性が増した。</li> </ul>							
施工方法	<p>①施工基準となる基礎工を施工後、基礎上に根石ブロックを設置し、背面まで裏込材を投入し固定する。                  ②胴込コンクリートにより基礎工と根石ブロックを一体化後、裏込材の敷設と併せ2~3段空積で積み上げる。                  ③空積後胴込コンクリートを投入しバイブレーターにより十分充填する。④②~③を繰り返し計画高まで積上げる</p>							
施工・材料単価(従来との比較)	<p>平成21年7月(NETIS掲載時)                  従来型間知ブロック:JISタイプ150kg未満/個 控長350mm 1,257,972円/100㎡(国交省積算基準による)                  自立型間知ブロック:JISタイプ150kg未満/個 控長350mm 1,257,972円/100㎡(自社積算見積りによる)</p>							
適用条件・範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準的な施工勾配は1:0.3~1:1.0とする。・壁体の直高はH=7m以下</li> <li>・高さ方向へ連続して作業が可能のため、施工延長が短い工事ではメリットが高い。</li> <li>・災害復旧工事などの短期間に完成を要する工事では効果が高い。</li> </ul>							
施工・使用後の環境への影響	<p>環境への影響項目は特になし</p>							
施工・使用上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根石の施工はブロック積全体の仕上がりに影響するので、根石を施工後、胴込コンクリートによって固定することが望ましい。</li> </ul>							
実績状況(相手先、件数など)	<p>国土交通省 43件                  地方自治体 4,120件                  (うち県内では、土木事務所管内 2,884件、市町村 1,236件)</p> <p>国土交通省千葉国道事務所                  夷隅土木事務所・長生土木事務所・山武土木事務所                  千葉土木事務所・君津土木事務所・安房土木事務所                  香取土木事務所・海匠土木事務所・葛南土木事務所 他</p>							
その他(各種適合基準、グリーン購入法、建設技術審査証明書・GISなど)	<p>該当なし</p>							

(様式2-2)

### 自立型間知ブロック製品

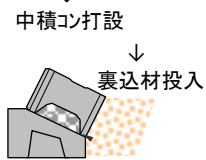
正面壁

背面壁

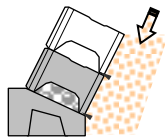


### 自立型間知ブロックの施工

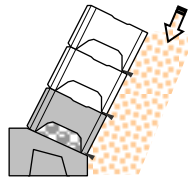
①基礎上に根石ブロックを設置する。



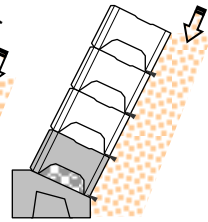
②ブロック設置  
↓  
裏込材投入



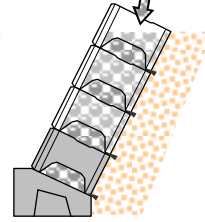
③ブロック設置  
↓  
裏込材投入



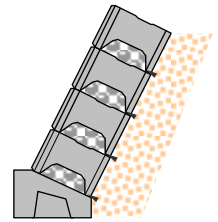
④2~3段繰り返す



⑤1.5~2.5段分同時に  
胴込コンクリートを打設する。



⑥ ②~⑤の繰り返しにより計画高さまで積み上げる。



- 基礎ブロックを据付後、基礎ブロックの1/2まで中詰コンクリートを打設する。
- 基礎ブロック上に根石ブロックを据付け(キャンバー調整)、根石ブロックの1/2まで中詰(胴込)コンクリートを打設し基礎工と一体化する。
- 根石ブロックより上段は、積ブロックの据え付けと裏込碎石を併行し2~3段ずつ積み上げる。
- 2~3段積み上げ毎に胴込コンクリートを1回で打設し(上段の胴込コンクリートは1/2まで) この繰り返しにより計画高さまで積み上げる。根石ブロックより上段は、積ブロックの据え付けと裏込碎石を併行し2~3段ずつ積み上げる。



自立型間知ブロック据え付け



裏込材敷設



胴込コンクリート打設

河川護岸施工事例



道路法留擁壁施工事例

